



学生相談室 相談員
国際日本学部専任講師
ワルド, ライアン M.



【あなただけではない。それはそれとして】

かなり前の話である。当時、私は古い留学生寮に住んでいた。夏の暑い日、蝉の声がやかましい季節であった。ある日、少し仲良くなった男性の留学生から話しかけられた。「どうしても話したいことがある。寮内より外がいい。ちゃんと聞いてくれる?」とそわそわしている。何がなんだか分からぬまま、「近くの公園に行こう」とこちらから誘った。

そして、二人でベンチに座った。友人の震えは止まらない。よっぽど話なんだろうな。重病か何かだろうか。しばらく沈黙が続き、しかし、とにかくにも蝉がやかましい。

どのくらい時間が経っただろう。「隠していたことがある」とポツリ。「うん。聞いているよ。告白してごらん」私は慎重に答えた。「自分は…実は…」と彼は何度も話が途切れるのを繰り返した。

そして、ついに。「実は、自分はゲイなんだ」

「で?それがどうしたの?」私はかなり無愛想に返してしまった。(振り返ってみると、本人にとっては、自分の生き方そのものに関わる一大事だったのだが、私は「そうなんだ。わかった。帰ろう。それはそれで」という思いであった。)

またしばらくの沈黙。呆然と彼の顔を見ていた。互いに言葉が出ない。やがてどういうわけか、

二人で大爆笑。「そうか。それはそれとして。誰に恋愛対象が向かうかは、自分自身で決められるものではない。もう帰ろう」と。

20歳前後の頃、僕のいともカミングアウトした。「私はレスビアンだよ。女性が好き」。その時も、私は同じような態度であった。正直何とも思わなかった。「そうか。それはそれで」と。しかし、私の家族(米国)の反応は必ずしもそうではなかった。とりわけ母と祖母はなかなか受け入れられない様子であった。母は「彼女の彼女をどう呼べばいいの?どうやって付き合えばいいの?」とそれなりに理解を示そうとしていたが、祖母にいたっては「ただの反抗期だよ」というありさま。(今は亡き人だが、「おばあちゃん、同性愛は反抗期なんかじゃないよ」と何度か話したこともある。)

以上の話は、決して「LGBT」に限るものではない。自分の生き方、悩み事、やりたい事、家族との葛藤、学業の問題、卒業後の進路などは、必ずしも周りの人々には理解されないかもしれない。そんなとき、学生相談室にぜひ声をかけてほしい。気軽に相談してほしい。自分が抱えている問題の解決策と一緒に考えよう。

学生相談室は、精神科医、カウンセラー、弁護士、教員の相談員、それぞれの専門家が待っている。また、毎月のようにさまざまなイベントも開催している。参加をお待ちしています。

学生相談室について

駿河台キャンパス…… 大学会館2階 TEL:03-3296-4217

和泉キャンパス…… 第一校舎2階 TEL:03-5300-1178

生田キャンパス…… 中央校舎2階 TEL:044-934-7619

中野キャンパス…… 低層棟4階 TEL:03-5343-8080

開室時間

月～金 10:00～17:00

- 相談の予約は開室時間内に来室、または電話にてお受けします。
- 予約状況などから、面談が申込翌日以降になる場合もありますので、ご了承ください。
- 土曜日(9:00～12:00)に面談をご希望の場合は、事前にご相談ください。
- 夏季休業期間中、入試期間中など、開室時間を変更する場合がありますので、掲示、ホームページでご確認ください。
<https://www.meiji.ac.jp/soudan/>
- 新型コロナウイルス感染症の影響拡大に伴い、開室時間等が変更となる可能性があります。学生相談室ホームページで最新のお知らせをご確認ください。